

岡山市区づくり推進事業報告書
(地域活動部門)

平成29年 4月 3日

岡山市長 大森 雅夫 様

フリガナ ソバデイキイキジッコウイインカイ
団体名 蕎麦でイキイキ実行委員会
所在地 [REDACTED]
連絡先 [REDACTED]
フリガナ [REDACTED]
代表者氏 [REDACTED]

実施分野	(該当の分野を○で囲んでください) ⑦ 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名	耕作放棄地再生、環境保全、及び特産品作り
事業実施区域 (小学校区)	牧石小学校区(牧石、玉柏地区) + 御津小学校区(草生地区)
事業内容	※実施事業の概要をご記入ください。また事業実績を示す写真(2枚程度)、作成した報告書やチラシ等を添付してください。 現在、耕作放棄地再生としてソバと大麦の変則2毛作を行っている。通常の農業従事者は米を中心に兼業農家として自家消費用の野菜などをプラスで作る程度だ。さらに、慣行農法ではなく自然農で営農できる事実を周知するために我々の農的活動はフェイスブックに「ソバでイキイキ実行委員会活動報告」としてアップしている。 平成28年の熊本・大分震災に際して、我々が栽培している大麦の特徴である自然栽培(無農薬・無化学肥料) + 食物アレルギーを引き起こすといわれるアレルゲン食品ではないことに注目していた熊本の一般社団法人「TAO塾」の要請により、製粉した大麦粉を「食物アレルギー救援物資」として無償提供した。 特産品作りに向けて大麦うどん、大麦ワッフル、大麦シフォンケーキ、大麦フィンシェ、大麦ソルトクッキーなど7品目を試作した。アレルゲン食品ではない自然農大麦で食物アレルギーを持つお子さんとその家族に幸せをもたらすことができる菓子を岡山市北区の特産として世に問う準備段階に入ったと申し上げて良いと思う。 また、御津公民館を活動の舞台として、子どもフリー塾「大麦うどんを作って食べよう」というイベントを、NPO法人こどもセンターと協働で実施。さらに、「地産地消セミナー」を笠井山のMOJIROU店主 [REDACTED] を講師に招いて行った。 大麦原料での商品開発は、建部町のナチュラルスイーツ「チュプ」さんに業務委託をして、現在5品目程度の試作品とレシピが完成している。

事業目的とその達成状況と効果	① 現在、耕作放棄地再生として栽培しているソバと大麦に関して、気候変動の影響を受けにくい大麦を中心に、特産品作りの試作を重ねている。我々が栽培している大麦の特徴は、自然栽培（無農薬・無化学肥料）であり、また、食物アレルギーを引き起こすといわれるアレルゲン食品ではない。大麦うどん、大麦ワッフル、大麦シフォンケーキ、大麦フィナンシェ、大麦ソルトクッキーなど7品目を試作した。＝農業的効果を挙げれば、ここ4年いわゆる無農薬・無化学肥料でも収量の多寡を付度しなければ変則2毛作が可能という実績を作れたと思う。農業の環境への最大因子は農薬と化学肥料である。環境負荷の少ない農業をベースに今後も継続的にその成果を検証していく。さらに、アレルゲン食品ではない自然農大麦で食物アレルギーを持つお子さんとその家族に幸せをもたらすことができる菓子を岡山市北区の特産として世に問う準備段階に入ったと申し上げて良いと思う。 ② 御津公民館において8月6日「夏休みフリー塾 大麦うどんとワッフルを作って食べよう」をNPO法人子どもセンターとの協働で実施。11月20日「大自然のめぐみ料理MOJIROU」店主の[REDACTED]を講師に招いて、「地産地消料理会」を開催。2月 3月26日「多文化カフェ」との協働で、地元在住のベトナム人研修生、及び地元住民を対象に大麦うどんの作り方講習会を開催。＝我々が協働相手として公民館を選定した理由は、地域に根ざした口コミでより地域と深く交流していこうという姿勢からだ。今期は、その舞台を北公民館から御津公民館に移した。相手先の事情により、この両公民館とは、今後とも以上のような講座内容に関して、提案を続けていく。まだまだ市民に周知できていない区づくり事業に関してよりよい宣伝にもなる。 ③ 2年前に放置竹林を整備し、竹チップにして熟成を完了した堆肥を始めて畑に入れて種をまいた。見た目の熟成度は完璧に思えたが、会員相互の意見交換会での意見集約では即効性は無いが、今後とも継続的に畑に入れて経過を観察していこうという意見が大半だった。
企画などの工夫と情報公開	※実施にあたって工夫したこと、また住民への活動の周知広報の取組とその評価を記載してください。 農的活動の事業実施地域であるエリアには、御津公民館と北公民館がある。今期は、重点的に御津公民館で「地産地消・食育セミナー」を3回実施した。①夏休みフリー塾「大麦うどんとワッフルを作って食べよう」は御津公民館の主催する「夏休み子どもチャレンジひろば」の一環であり、NPO法人子どもセンターとの協働企画である。②笠井山で「大自然のめぐみ料理 MOJIROU」を運営している時宗さんを講師に招いて開催した「地産地消料理会」には、県内各地の参加者がいて、地元の参加者にもよい刺激になった。③「多文化カフェ」は、御津公民館で開催されている地元在住のベトナムからの研修生と地元在住者の交流会である。ここの協働で我々の自然農大麦粉を使い「大麦うどんの作り方講習会」はベトナムからの研修生に自分で大麦うどんを打ってもらい、文化交流の一環として地元からの一般参加者と交流を深めてもらうというボランティア活動である。今回の講習会に関しては、オニビジョンから取材申し込みがあり、その内容に関しては、御津ニュースとして放映された。 今年度の活動に関しては、その内容を北公民館に伝えて講座作成の参考にしよう。 さらに、フェイスブックで「ソバでイキイキ実行委員会活動報告」として写真等の公開は個人情報保持を前提にして公開している。

次年度計画	※次年度に引き継ぐ課題、今年度の実績を踏まえた次年度計画の概要をご記入ください。また次年度に引き継がず活動を完結する場合はその理由（課題が解決したからなど）をご記入ください。 地域再生＝まちおこしのモデル作り 耕作放棄地を再生して、大麦・ソバを育て、それを製粉し、菓子や蕎麦という特産品に仕上げる。このミニ6次産業モデル+街場での仕事＝「半農半X」というライフスタイルを受容する若者を探し出し地域に生活の拠点を移してもらう。 我々の目指す最終の姿は、以上のようなものだ。また、そうした若者にめぐり合えなくとも以上のようなミニ6次産業モデルが完成する3年後には、この実行委員会は自主的に解散すべきだと考える。 この中期計画をふまえて、次年度は大麦由来の特産品作りをメインにすえた活動になる。さらに、地域再生をにらんだ蕎麦屋についても、高野尻テラスに舞台を設定し、試験営業ができれば望外の収穫だと思う。 コミュニティとの接点である公民館との協働は、可能な限り実施の方向で今後とも継続課題になる。
事業実施者としての評価・感想など	※事業を実施することを通じて持続可能な地域づくりをすすめることができたか、あるいは持続可能な地域づくりを担う人づくりにつながったかなど、本事業についての評価をご記入ください。 もともとサステイナブルな事業として本事業は始まった。耕作放棄地という地域に眠った宝を再生し、ミニ6次産業化で特産品作りにチャレンジし、いままた、就労支援を念頭に入れた経済循環のモデルを創造したいと思っている。 この事業の評価基準は、「関係するすべての人の幸福度」を上げるという価値観に根ざしている。最終製品である大麦製品は、食物アレルギーでみんなと同じものが食べられず悲しんでいるお子さんやお母さんを笑顔にしたい。その製品化に今後協力してくれるであろう障害者の就労支援では、適正な賃金と仕事を発注したい。耕作放棄地再生にかんしては、地域の環境及び景観の保全を第一に「自然農」を推進したい。 この活動に係わるすべてのヒト・モノの関係性は、国民総幸福度を上げるためにある。概念的にはブータン王国のマネであるが、地域作りにこそこうした既存の価値観と異なるものの見方が必要だと思う。*誓約しておくが、私個人は何らの宗教的活動にも関与していない。

■事業実施にあたっての協働の状況

[illegible]

収支決算書

◆収入

単位:円

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
岡山市補助金	217,000	45,000	
負担金	217,500	45,176	
参加費			
計	434,500	90,176	

◆支出

単位:円

項 目	予 算 額	決 算 額	内 容 (必ず記載してください)
消耗品費	74,500	40,890	製菓用具、プリンター インクほか
食糧費	8,000	6,394	会議用お茶代
燃料費	30,000	4,764	草刈機、管理機用燃料
通信運搬費	17,000	2,550	ユーパック、宅配代
広告料	50,000	0	
使用料	80,000	2,000	クラインガルテン施設 使用料
原材料費	50,000	12,578	地産池消セミナー材料
委託料	80,000	16,000	試作品作成料
報償費	45,000	5,000	講師謝礼
旅費交通費			
計	434,500	90,176	



■事業実施経過

※時系列に沿ってご記入ください。事業実施のための準備や打ち合わせ会合日などもご記入ください。補助事業実施決定前の準備活動についてもございましたらご記入ください。

年 月 日	内 容
2016. 04. 09	障害者就業生活支援センターの指導員だった経歴を持つ■■■■(NPO 法人実りの会会長) と大麦粉を使った就労支援施設での特産品作りの打ち合わせ。
04. 18	熊本地震の支援に関して TAO 塾代表■■■■が立ち上げた【食物アレルギー支援プロジェクト】に手持ちの自然農大麦を製粉して送る準備を開始。
05. 01	拡大理事会の開催において、先の熊本震災への「食物アレルギー支援」「今年の大麦生産に関する方向性」を決定する。
05. 22	草生圃場は、二条大麦の収穫に最適なお日和。1 条刈り用バインダーで収穫。本日の作業第 2 弾は、ご近所よりいただいた足踏み式脱穀機を使って、脱穀作業完遂。
05. 23	大麦収穫後の畑には、外来種イネ科雑草「トールフェスク」が残っている。本日は、草刈作業。
06. 01	ノギ取り用の機械を委員長がネットオークションで落札。到着するまでの間、梅雨前の最後の晴天を利用して天日に干し。および、地元の散歩コースである桜土手の草刈。
06. 02	初夏の天日で乾いた大麦は、箕に掛けて袋に入れる。
06. 10	共同作業者がネットで手に入れた脱ボウ機でノギ取り開始。
06. 11	ノギ取り作業と唐箕掛けも完了。これで夏季農作業はすべて完了した。
06. 14	今年度の自然農大麦を製粉開始。
06. 18	委員長がボランティアで牧山農援隊（ほぼ老人会）の管理する、耕作放棄地の草刈支援。農業の多面的機能支払制度を受けて発足した「農援隊」とは、補助金の二重支払問題で疎遠になっている。今年、町内会長交代したことによって協働再構築の糸口がいずれ見えてくると期待している。
07. 10	委員長といっしょに本日、牧山と草生の草刈に出動。
08. 06	御津公民館&岡山子どもセンターと共催で夏休みフリー塾「大麦うどんを打って食べよう開催」
08. 24	処暑もすぎたんで畑の草刈。
08. 30	桜土手の草刈完了
09. 11	草生の圃場にて秋蕎麦の種まき終了。上地の田んぼは草まみれ。本日も 3 2 度の中、草刈までは手が回らない。
10. 06	本日より土寄せ開始。長雨、日照不足でまったくひどい状況
10. 18	金山近くで料理店を開いている MOJIROU という店をやっている■■■■に「ソバの種」をさしあげた。草生圃場より上手に花を咲かせた。
11. 20	自産自消セミナー開催。 第一部：湯捏ね十割御膳蕎麦＋外一蕎麦の相盛を参加者 8 名にご試食いただいた。 第二部：自然農大麦 100%ワッフルを自産自消していただいた。

	今回は、新会員■■■■との共催で、出し巻き卵と酵素玄米お結びを食べていただいた。＝大好評！
11. 21	種を播いて70日＝刈り取り開始。
12. 04	大麦クッキー試作品 以前より建部町の■■■■にお願いをしていた大麦クッキー（ベースのレシピは阿蘇の菓心なかむらさん）試作1号をお届けいただいた。 □北区御津草生の圃場で無農薬・無化学肥料（自然におまかせ）で育てた大麦が主原料 □熊本震災のとき、TAO 塾さんの呼びかけでお送りした大麦粉をご当地で「食物アレルギー救援物資」として配布したレシピをもとにアレルギーフリー・無添加物
12. 11	竹堆肥を筋状に撒き、コマメ君で耕運。種まき機で大麦を播く作業完了
2. 05	ナチュラルスイーツ「チュプ」より大麦製品の2品到着
	会員の皆さんに送付し、評価していただく。
2. 21	高βグルガン大麦利用促進連絡会オフ会 大麦の次期栽培品種を求めて姫路で開催されたオフ会に参加。我々の地域で栽培可能な「きらりもち」を次期栽培品種にする。
3. 11	「大麦ソルトクッキー」「大麦ビスコッティ」の試作品到着。 会員の皆さんに集まっていただき評価会を開催。 一番ベーシックな「大麦ソルトクッキー」を手始めに、協働可能な就労支援施設を探す。
3. 26	御津公民館主催の異文化交流事業（多文化カフェ）との協働で大麦うどんを地元在住のベトナムからの研修生の皆さんに作っていただき、地産地消という日本の文化を体験していただいた。 私どもは、ボランティアなので参加費に関しては多文化カフェに寄付。
3. 29	高野尻テラスを運営している■■■■から、同テラスでの「蕎麦打ち教室」開催を依頼され第1回講座を開催。